

小中高生の自宅学習を 学生が遠隔で支援

チャレンジセンター
「Tokai International
Communication Club
(TICC)」が6月3日

ンライン教室を企画。毎
週水曜日と木曜日の夕方
に2時間開講し、各日約
6人の小中学生、高校生
が参加している。

から、神奈川県秦野市在
住の外国にルーツを持つ
子どもたちを対象にした
学習支援「こティー教
室」(共催)はだの子ども
も支援プロジェクト「ゆ
う」をオンラインで実
施している。

教室では、事前に宿題
や問題集などの課題をメ
ッセージアプリ「LINE」
で共有し、Zoomのブレ
イクアウトルーム機能を
使って個別に指導。メン
バーが交代で講師を務め
るほか、例年市内で開講
している日本語教室が中
止となったチャレンジセ
ンター「Beijo Me Liga」
のメンバーも水曜日に参
加している。

TICCでは毎年、外
国からの移住者や、両親
が外国籍の子どもへの教
育支援活動として、秦野
市南公民館を会場に週2
回の教室を実施してき
た。今年度は、新型コロナ
ナウイルス感染症の拡大
により公民館での活動が
中止となったことから、
WEBビデオ会議システ
ム「Zoom」を用いてオ

企画責任者の井上祥太
郎さん(教養学部2年)
は、「春先には小中学校
が一斉休校となり自宅学
習が続いたので、おくれ
をとってしまった勉強を
補う機会にもなっ
ているようです。



Zoomを通じて、学生が子どもたちに1
対1で対応。学校の宿題や受験勉強な
ど、それぞれの課題をサポートしている

オンラインだと公
民館が遠い子ども
や保護者も参加で
きるメリットがあ
る。Beijo Me
Ligaメンバーの
参加も心強く、コ
ロナが収束した後
も連携していきたい」と語った。